



トトロの住む家

著者名	宮崎 駿	発行年	2011年
出版社名	岩波書店	ページ数	93ページ
値段	2,300円	ISBN	978-4000257978
コメント	家と、樹々と、人々が寄り添いあって、ゆっくり年を重ねてきた、そのたたずまいに、宮崎監督のおともをして、ほんのつかのま、おじゃまさせていただきます。 この明るい板張りの縁側では、どんな少女たちが桜のつぼみを数えたのだろう。 この節くれ立ったエゴの木は、どんな腕白坊主がよじのぼったのだろう。 写真とイラストからご自由に、いにしえの息づかいを蘇らせてください。 あ、トトロめっけ！		

[図書一覧](#)[書籍紹介](#)[読者投稿欄](#)[映画一覧](#)[プロフィール一覧](#)[自己プロフィール](#)[掲示板](#)[読者投稿欄](#)[コメント登録](#)[ペンネーム](#)[お勧め度](#)[読んだ場所](#)[読んだページ数（時間）](#)[コメント](#)[立ち読みポイント](#)[投稿時間](#)

Shangus
☆☆☆☆

本書は、となりのトトロの監督である宮崎駿が、昭和時代の風景を残している家を巡り会えながら、家の写真と自分の思い出を載せている本である。最も興味深かった点は、筆者があるストーリーを作為的に作ったのではなく、東京を巡りながら、自分の思い出を引き出す家に訪ね、そのまま思い浮かべることを述べたことである。今の東京は写真からも見えるが、都市計画により開発されていて相当現代的である。本を読む以前、私は筆者のように昭和時代の人ではないため、共感できることがあるか疑いがあったが、家の写真と筆者の絵を見ながら昭和時代の思い出に関してある程度は無理なく共感ができた。ケヤキの生長を通じて筆者の感情が述べられているのを読みながら、人と家は時代と一緒に生きていく友達ではないかと筆者のマインドで家という対象を眺めることができた。時代が変わり、家の形が変わることも時代の流れであると思われるが、人の感情を（闇）を表現していることが消えていくことは、懐かしさが感じられた。

[全部](#)[89P \(162分\)](#)[66 - 69](#)[2020/11/30
22:26:30](#)[TOP](#)



有頂天家族

著者名	森見 登美彦	発行年	2007年
出版社名	幻冬舎文庫	ページ数	423ページ
値段	720円	ISBN	978-4344415263
コメント	この世の中は天狗と狸と人間から成り立っています。 三択だよ、って言われたら、何になりたいですか。 ゼツタイ狸を選びたくなる。狸になって偽電に化けて寺町通りを爆走して「それは阿呆の血のしからしむところだ」って何々大笑してみたくなる。たとえ狸鍋にされても。きゃーッ。 章ごとに独立でも読めます。続編も出ましたね。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

sora ☆☆☆☆☆	アニメ化もされている森見登美彦の代表作の一つで、狸の主人公を中心に京都で繰り広げられるファンタジーである。 一冊を通して続くストーリーがあるので、それに沿って読むことをお勧めするが、各章の最初に説明が入り、ひとつの出来事が完結するので、それぞれの章だけで読むこともできる。 森見登美彦作品は以前から気になっていたものの読む機会がなく、初めて手に取ることができた。始めは文体や登場人物の関係性の難しさから読みにくいと感じたが、一度内容が入ってくると、その独特の世界観と登場人物たちの魅力に取り込まれ、読むのを止めることができなかった。 主人公は、面白さを求めるあまり放浪者と思われるが、実際には家族愛が深く、人間(狸)らしいいい性格の持ち主で、語り部としての彼の面白さが作品を引き立てている。そして何より弁天様との絡みが私は一番好きである。 ネタバレになりそうなので実際に手を取って読んでいただきたいが、間違いなくお勧めできる一冊である。 続編があるので、ぜひ続きを読みたいと思う。			
	全部	417P (330分)	29-38	2020/11/30 23:59:30

[TOP](#)



神様のカルテ

著者名	夏川 草介	発行年	2010年
出版社名	小学館文庫	ページ数	522ページ
値段	2,050円	ISBN	978-4094086188
コメント	ものがたり、だけれど、真実。 今この瞬間、あの町でこうやって生きている人たちがいる。 信州の清冽な空気のなかに、あたたかな涙を流れます。 「良心に恥じぬというだけが、我々のたしかな報酬だ」——こんなふうに仕事をしたい。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勤め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

TOP



新章 神様のカルテ

著者名	夏川 草介	発行年	2019年
出版社名	小学館	ページ数	413ページ
値段	1,944円	ISBN	978-4093865319
コメント	新章のテーマは「組織」。 組織が大きくなり複雑になると、それぞれがまっとうな仕事をしていても、なぜか軋みや歪みが発生して、個人の小さな熱意をつぶしかかってくる。 そんなとき、組織人としてどう振る舞うべきなのか。その苦闘のプロセスです。前シリーズを読んでいなくても全然だいじょうぶ。 あ、最後のほうに大泣きポイントがあるので、泣き虫さんは研究室や電車じゃなく、ご自宅のベッドでどうぞ。		

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

Matsuzawa ☆☆☆☆	29歳の末期臓器癌患者とどう向き合うかという物語。患者にはまだ幼い娘がおり、境遇を知り、病院や医者との掛け合いを読んでいるだけでも感情移入してしまう。 私はこの神様のカルテ1,2,3と読んでいるが、この新章から入っても問題はないと思う。主人公栗原(医者)は患者に真摯に向き合う人物。彼は夏目漱石を読むのが趣味で独特の言い回しが面白い。彼はどの作品でも多くの名言を残している。個人的に一番響いたのは『真面目というのは真剣勝負の意味だよ』という言葉。その言葉通り彼は真面目に患者と向き合い、患者のために奔走する。本シリーズのいい点は大学病院内での緊迫した会話や命に対する訴えなどが多く挙げられるが、私は愛妻と愛娘との心温まる日常が好きだ。堅物な男とそれを支える純情な妻、まだ幼い子供との掛け合いが上手く描かれていると思う。 本作からも十分楽しめるが、全作品読むことを強くお勧めしたい。結構分厚く中々手が伸びないかもしれないが、すぐに引き込まれその日の夜には泣くこと間違いなしだ。			
	413	413P (300分)	すべて	2020/11/30 16:03:41

[TOP](#)



舟を編む

著者名	三浦 しをん	発行年	2015年
出版社名	光文社文庫	ページ数	347ページ
値段	670円	ISBN	978-4334768805
コメント	祝本屋大賞2012!! 辞書づくりてんやわんやのお話。ラノベチックなほんわか展開もあるけれど、キャラクターごとの視点の使い分けで世界観がしっかり組み立てられています。 しをんさんの職場案内は、自分にふさわしい働き場所を探す就活にもとても有用でしょう。シネマも合わせてどうぞ。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム お勤め度	読んだ場所	読んだページ数（時間）	コメント 立ち読みポイント	投稿時間
---------------	-------	-------------	------------------	------

わくわく ☆☆☆☆☆	アニメ化もされた、三浦しをんの作品。彼女の作品は、主人公が一つの事に真剣に取り組む様を描くことが多いが、今回もその一つであり、コミュニケーションが苦手であった主人公馬締光也が辞書『大渡海』を作る中で色々な人々と出会っていく話だ。作品としても楽しめるのと同時に、それまで社会に上手く馴染めなかった主人公が辞書作りを通して生き活きとしだし、人々をひきつけていく様は、読者にも響き、生きる励みになるのではないだろうか。ぜひ読んでいただきたい作品。			
	全て	347P (300分)		2020/12/01 00:17:43

unknown ☆☆☆☆☆	題名だけ聞いたことがあったので読んでみたいと思って読んでみたら想像していたのとは違い、辞書に関する物語で、先輩と作り上げようとしたが完成することができず、新たな後輩と完成させていくという物語であった。馬締の放つ空気感や言葉がとても興味深く面白かった。自分も何かに向かってひたむきに頑張り、荒木たちのように素晴らしい達成感を味わいたいと思った。			
	全部	347P (200分)		2020/11/30 21:47:02

yasu ☆☆☆☆☆	辞書を編むことに生涯を捧げた荒木の話かと思ったら、辞書作りに適任な人、馬締の話に代わり、辞書作りに情熱を注ぐようになり、精通して成長し、成し遂げる、という内容です。お堅い辞書作りの中で柔らかい恋の話を織り交ぜることで、好奇心を掻き立てられる内容です。辞書編纂と通じて、お互いを思いやる気持ちで溢れ、温かい気持ちになるのと、辞書が出来上がった達成感で、自分も何かを地道に頑張ろう、と前向きになる本です。 馬締がかぐやに宛てた手紙があまりにも難解で面白くないもので馬締の誠実な人柄がよくわかりました。 これまで辞書作りに情熱を注いできた松本先生が瀕死の状態になり、何としても完成した辞書を届			
---------------	--	--	--	--

けたい、と必死になっている様子が伝わり、ドキドキしながら読んでいました。 馬締の発した言葉で、辞書は本当の意味での完成はない。1冊の辞書にまとめることができたと思った瞬間に、再び言葉は形を変えていってしまう。言葉は虚空へ霧散していく。完璧な辞書を作ることは誰にもできないとわかっていても、言葉を使って思いを伝えようとするひとがいるかぎり、俺は全力でこの仕事を成し遂げてみせる、というのがあり、辞書作りに、すっかりのめり込んで生涯の仕事にする決意が感じられました。 岸边が「愛」についての説明で「異性を慕う心」の説明に異論を述べ、今は異性だけではない、同性愛もある、というところで、時代と共に言葉の持つ意味の変遷を理解することができました。 西岡が他の部署に異動する前にまとめた資料は、辞書に対する想いや馬締に対する愛情が伝わりました。また、馬締はその気持ちを察して、また感謝をして、辞書の作成にかかわった人のメンバーに西岡の名前を入れたのだと思います。とても温かいうれしい気持ちになりました。			
1-347	347P (240分)	48-51ページ、181-185ページ	2020/11/29 22:38:56

ウル ☆☆☆☆	最後に辞書を引いたのはいつだろうか？ 高校の時に古典単語の辞書を少しだけ引いたことを除けば、私が最後に辞書を引いたのは小学生のころだった気がする。その頃は、たくさんの言葉と堅苦しい説明が載っている分厚い本、というのが辞書に持っていたイメージだった。初めて辞書を手にしたときは、やはりなぜかワクワクして、調べたい言葉もないのにばらばらと辞書をめくったりもした。しかしその興味もやがて失われ、本棚の装飾品と化してしまったなあと、読了後にふと思い出した。 この作品では、辞書の編纂というテーマを通して、言葉に人生をささげた人々の生き様や、その周辺の人々の想いが語られていく。言葉という大海原を進む舟が編まれていく過程に、様々な人の熱意が、苦悩が、喜びが、悲しみが、乗っかっている。それらは私に、言語化することが難しい、今まで感じたどれとも違うような感動を呼び起こしてきた。読み終わった後に胸に去来するこの静かな感動を、ぜひあなたにも味わってほしい。		
	1-324ページ	324P (180分)	19-23ページ 2020/11/06 00:21:25

unknown ☆☆☆☆	辞書を引いてみたくなった。 この本はある編集部で辞書を新たに作るため言葉への鋭いセンスをもつ変わった男、馬締と編集部の仲間や下宿の人々のストーリーである。辞書作りという真面目な仕事の話だけでなく、主人公の恋愛についても話が進んでいく。この本の驚くべきところは一気に時間経過していくところだ。小説内でも辞書作りには膨大な時間がかかると触れられていたが、あまりにもあっけなく前触れなしに時が進んだため、読み飛ばしがないかその前の箇所を読み返してしまった。私自身小説内では語られなかったサイドストーリーなどがとても好きなのでその間の話も、もしあれば読んでみたい。 辞書作りという聞きなれない仕事につられてついこの本を手にとってしまった。登場人物の多くが辞書に魅了された人々であり、その人たちが織り成す言葉を巡るやりとりはつい笑ってしまうような時もあれば、知識としてためになってしまう時もあり読んでいて楽しい。それぞれの登場人物の視点から物語られるためその都度感情移入してしまった。また登場人物の個性が強く、実際にいたらこんな人だろうなと思いながら読むことができた。特に「西岡」視点の盛り上がりはとてもすごく一気に好きになってしまった。大渡海ができるのが先か、松本先生がなくなってしまうのが先かというシーンではとてもハラハラしたし、完成後のパーティーのシーンでは自分も達成感に包まれた。辞書の本だからと言って堅苦しくなってしまうわけではなく、思春期の少年が辞書でつい下ネタを引いてしまうというような言わば俗なあるあるなども書かれており読みやすかった。ぜひ自分で買って何度も読み返したい。		
	全部	347P (240分)	47-51ページ 2020/10/16 23:42:19



下町ロケット

著者名	池井戸 潤	発行年	2013年
出版社名	小学館文庫	ページ数	496ページ
値段	756円	ISBN	978-4094088960
コメント	爽快到大空へ。 大田区が舞台のものづくり物語。企業の競争や特許のこともちょっと分かるし、見知った地名がちらほらあるのも親しみやすいし、人生観も深くて、さわやかに読み終われる直木賞受賞作。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

T.K ☆☆☆☆☆	すでにテレビドラマ化されている作品だが、まだ見たことがなかったので、せっかくなら小説で読んでみようと思い「下町ロケット」を手にとってみた。読み始めは、中小企業の困難さが際立っていて読むのがつらかったが、物語が進むにつれて、逆転していくような爽快感があって読みやすかった。 この物語では、人間関係が重要であると感じさせてくれるものだった。佃に困難が立ちはだかるのに対して、会社の仲間、弁護士、時には大企業の一部といった人たちが協力をして困難を乗り越えていった。もちろんビジネス上での仲間だけではない。佃の家族に関しても僅かながら描写されていて、家族の心情の変化も読み取れた。 また、この作品は、夢に対する情熱も大切であると教えてくれる。作品内では、後半から顕著になっていくが、それでも情熱がなければ、ロケットの部品の一部を製造するということまでいかなかっただろう。佃は以前にロケットの実験で失敗して研究を挫折しており、そのような経験を考えるとなおさらそう感じられる。このように夢や夢に対する情熱があったからこそ最終的に成功しただろうし、いい人間関係を築けたのだと思う。 上のようなことを考えなくても純粋に読んで楽しめる作品なのでお勧めしたい。			
	1-480	480P (450分)	458-463	2020/11/30 21:55:32

unhealthy boy ☆☆☆☆☆	「倍返しだ」で有名な半沢直樹の作者で知られる池井戸潤の作品です。下町ロケットのドラマが過去に放送されていたが縁がなく見ていないのですが、下町ロケットという名前はとてもよく知っていたので今回読んでみることにしました。ドラマは非常に長いので本で読んだ方が早いです。ざっくりとした内容としては、自分の作ったロケットを打ち上げるという夢を持った主人公の佃航平が父親の会社を継ぎいで自社製の（ロケットの核となる）バルブを開発し、大企業からの圧力に抗ってそのバルブを搭載したロケットを打ち上げさせるという夢のあるストーリーです。大企業に買収されそうになったり、特許を買収されそうになるような逆境を乗り越えていく感じは半沢直樹に通ずるものがあります。特許の問題やお金よりも技術者としての夢やプライドを優先させたりと、理系で技術者を目指している人たちは身近で共感できる部分があるのではないのでしょうか。ぼくはお金を選びますが。この小説で一番良かったのは、さまざまな困難を佃製作所のメンバーで乗り越え最後打ち上げに成功するところも感動的なのですが、さらにそのバルブを人工心臓に応用できる
------------------------	--

ことが判明したところです。自分の夢を追って自分の意思を曲げずに突き進んでついにロケットを飛ばすことができ、さらにその開発したバルブで人の命を助けることができるなんて、なんて素敵なんだと思いました。ぜひ技術開発に携わる人たちはちゃんと特許をとってください！

7-480

474P (420分)

458-469

2020/11/29
23:29:55

yasu
☆☆☆☆

ドラマの下町ロケットを見て、興味を持ち、この本を読むことに決めました。この小説は主人公佃航平が、佃製作所で仲間と共に開発したバルブシステムでロケットを飛ばす物語です。宇宙への夢と社長として従業員を養うことの葛藤と戦いながら、人間味あふれる熱い仲間と共にナカシマ工業の訴訟、富山の悪意ある審査を乗り越え、ロケット発射まで辿り着く瞬間の達成感と爽快感がとても心地良い読後感を与えてくれます。

ここから先はネタバレになってしまうのですが、特に好きなシーンは銀行側の人間だと誤解されていたトノさん（殿村さん）が定期預金の解約を提案し、銀行に反旗を翻すシーン、中小企業に対していい印象を持ってなかった財前が実際の工場を見に行ったらバルブ外注をしてもいいのではないかという意味で手のひら返しをするシーンが見どころです。

全部

480P (120分)

56-68ページ、241-
255ページ

2020/11/29
20:17:45

[TOP](#)



海賊とよばれた男 上・下

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

著者名	百田 尚樹	発行年	2014年
出版社名	講談社文庫	ページ数	910ページ
値段	1,500円	ISBN	978-4062778299
コメント	もし社長面接で「最近読んでおもしろかった本は？」と聴かれたら、これを挙げてても良いかも。 出光興産を起こした男の一生に寄り添いつつ、戦前・戦争・戦後と、日本の石油業界が乗り越えてきた幾多の苦難を 活写します。小説を楽しみつつ歴史のおさらいもできてしまうすぐれもの。今の日本をつくった男たちの熱さの一端に 触れていただければ幸いです。 山室がいちばん好きなのは下巻198ページの金時計のシーン。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム	読んだ場所	コメント	投稿時間
お勧め度	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	

[TOP](#)



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板

麒麟の翼

著者名	東野 圭吾	発行年	2014年
出版社名	講談社文庫	ページ数	384ページ
値段	735円	ISBN	978-4062777667
コメント	はじめ：いきなり日本橋！ 派手な舞台装置でわくわく。 なかば：地道着実。推理の積み上げ、加賀さんかっこいい。 ラスト：いくつもの家族ドラマの重奏にしみじみ。 王道ですね。さすが定評ある作家さん。ミステリー好きのみなさまに。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勤め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

unhealthy boy ☆☆☆☆☆	あの偉大なる東野圭吾のミステリ、推理小説となっています。だいが昔にこの作品の映画～劇場版・新参者～を見ていて、かなり面白いという印象が残っていたものの内容の方は忘れてしまったので、今回は小説というかたちでもう一度楽しもうということで選びました。早速感想の方なのですが、やはり東野圭吾の小説はさすが、日頃読書する習慣のない私でも情景をすらすらと頭に思い描くことのでき非常に読みやすく、思春期の青年と親子愛を描くのがうまいなと感じました。ほかの小説と比べたときに、もちろん丁寧な描写で頭に入ってきやすいのもそうなのですが、なにより会話のテンポが非常によく、会話とそうでない部分が明確に分けられていることによって読みやすくなっているのだと気づきました。やはり会話の間に細かい描写が入ってしまうとどうしてもテンポが悪くなってしまうのですが、テンポをくずさないように簡潔に分かりやすい描写がなされていてとても読みやすいです。内容の方としてもほんとうに最後まで誰が犯人なのかかわからず、また終盤の真相説明もスピード感があり次々に事実が明かされていくのは読んでいて気持ち良かったです。そして過ちを犯してもそれと向き合うべきだという強いメッセージ性があり、とてもこころに残る作品となっています。最後に、日本橋を通るときに必ずこの作品を思い出さずほど印象深い作品になっています。この作品を知ることによって麒麟像に込められた思いを知るきっかけにもなると思うのでぜひおすすめしたいです。			
	1-372	372P (360分)	339-353	2020/11/29 19:44:18
T.K ☆☆☆☆☆	僕は普段から本を読むことが少なく本に対する知識がないので、有名な作家の本ということで読んでみることにした。結論から言うと、ミステリー作品としてとても楽しめた。ミステリーの楽しみ方としては一般的に犯人を当てるのが一般的であろうが、僕は後半になってもなかなか分からないままだった。 しかし犯人を詰めるまでの過程があっさりしすぎているなと感じなくもなかった。聞き込み調査などもほとんどうまくいった印象があったり、偶然のヒントがあったりと2人が苦労している感じがあまり感じられなかった気がする。ただ、それに関しては僕が普段、ミステリー作品を読んでないからそう思うだけなのかもしれない。 この作品を読んで、隠べいの連鎖がこの不幸な事件を引き起こしたのではないかなと思う。そして			

	その隠べいの連鎖を作っているのが教育者であると感じた。(以下若干のネタバレあり) 部活の顧問の先生が真犯人に対して身をもって隠べいすることであまくいくと見せつけてしまった。また企業の労災隠しに関しても、企業の役員たちが隠べいは悪だという教育を受けていれば、労災隠しが些細なことにはならないだろう。		
	この「麒麟の翼」は加賀シリーズの1つである。シリーズ全編を読んでものでもいいかもしれない。		
	1-372	372P (420分)	362-365
			2020/11/27 17:53:59

moshu ☆☆☆☆	私自身ほとんどミステリー小説を読むことの無い人なのですが、今回数年ぶりに読ませていただきました。最初に感想を言わせていただくと非常に疲れました。というのも元々文章から背景を想像するのが苦手な人でしたので、平均的なミステリーの小説のボリュームがわかりませんが非常に重く感じました。ただ、個人的に苦労して読んだ価値のある内容だったと感じ、序盤はゆったりと進んでいくものの、被害者の家族の過去や不可解な行動などが綺麗に結末に結びついていき、無理やり感がなく、スッと入ってきました。 本書のテーマはもしかしたらネタバレになってしまうかもしれませんが“嘘が嘘を呼ぶ”という所にあるなど感じ、私たち個人に対するメッセージ性もそうですが、絶え間なくニュースで汚職や横領などが報道される今現在に対する批判も込められているのではと感じました。 また、私のようにミステリーを読むのが苦手という方は、この作品実写化されておりますので一度そちらに目を通すといいかもとは思いました。私も少し見てみましたが主人公加賀の脳内イメージと主演の阿部寛さんがマッチしており、こちらに目を通しておけば本も読みやすかったかなと後悔しております。		
	1-372ページ	372P (300分)	306-315ページ
			2020/11/27 10:23:23

sora ☆☆☆☆	久しぶりに推理小説を読んだ。話の筋がしっかりしており読み応えがあった。犯人を誰かと予測して読むのは楽しかったが、分からなかった。最後の最後までほとんど話は動かず、それまでは少しずつ伏線を集めているだけなので、最後は止まらなくなるほど面白いが、それまでは少し退屈かもしれない。 この作品は、登場人物のイメージがしっかり浮かんでくるように描写されているのが素晴らしいところだ。例えば主人公の加賀は背が高く鼻が高く、それらしき少しおっとりし、ときには鋭いことを言う。今回のミステリーの被害者の青柳武明は誰も詳しい素性を知らないキャラクターとして登場している。そのためか、人物描写も少なく謎めいた感じを演出している。 また今回、容疑者と実際の真犯人は共に「誤魔化す」ことの被害者になっている。容疑者は労災隠しの被害、真犯人は過去の事件で当時の顧問に誤魔化せばその場を免れることができることを学んでいる。労災隠しは被害者に責任を擦り付けまた誤魔化し、顧問ははっきりと罪に問うことは出来ず、どちらもその罪をしっかりと背負ったかと問われれば疑問が残るが、作者は誤魔化すことでいずれは大きなことに発展してしまうことを暗に伝えたかったのでは無いかと考えられる。		
	家	300P (230分)	
			2020/11/22 04:18:29

[TOP](#)



精霊の守り人

著者名	上橋 菜穂子	発行年	2007年
出版社名	新潮文庫	ページ数	360ページ
値段	637円	ISBN	978-4101302720
コメント	地図から始まるファンタジー、青霧山脈に鳥鳴川、その時点でもうわくわくします。冒頭いきなり紅葉の渓谷に皇子さまがひらひらと落下していった、そこからぐいぐい加速するストーリー。この世と平行してひろがるナユグというあの世の存在とか、世界観も骨太に構築されていて、 強くてかっこいい女用心棒のバルサが大好きになってしまうと、続編へ続編へと10巻一気に読みコースに突入してしまいますのでご用心。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

ssk ☆☆☆☆	世の中に膨大に存在する本の中で、本書が優れた本であるかを定めるには私の経験はあまりに少なすぎると思う。しかし、私にとってこの本を読む時間が価値あるものであったと断言するには本書の魅力は十分であったといえよう。私は技術書を読んで業務に勤しむ毎日で物語とは無縁の世界を生きていた。今回、本書を選んだのはただの気まぐれだったのかもしれないが、その代償として慣れない読書は大変な集中力を必要とした。何分、物語を読んだのは数年ぶりなわけで、本書の何が他より優れていておすすめなのかは私には分からない。しかし、数々の場面で書き連ねられた美しい描写をもとに創造される美しい情景は大変素晴らしいもので、その情景を見るために何も考えず集中することで、まさにその世界に取り込まれたような、非日常的な経験をすることができた。特に、細かな剣捌きや、負傷だけでなく明るさや景色までも事細かに記述された短槍を使った戦闘シーンは圧巻である。丁寧に情景を思い描いて読むことで、この本の魅力は自ずと分かることであると思う。もし、私のように日々の忙しさをすべて忘れて一心不乱に読書をしたい人があるならば、本書を最初にお勧めするだろう。		
	1-360	360P (240分)	最初から
			2020/12/01 23:59:35

かにかま ☆☆☆☆	女用心棒バルサと新ゴゴ皇国第二皇太子のチャグムの旅のお話。チャグムが橋から川に落ちたところをバルサが助け、そこから物語が動き出す、ファンタジー作品。バルサの冷静さ、強かさやチャグムの成長に圧倒されます！情景描写もとても綺麗で、あの世（ナユグ）の様子もとてもリアルに描かれていて、まるで自分がそこにいるかのような臨場感で読み進められます。 立ち読みポイントのひとつめは一番最初、チャグムとバルサの出会いのシーンです。初め読んだときは気づかなかったのですが、あとから読み返してみると青弓川の水の描写がすごく丁寧で、この物語全体の伏線になっています。 立ち読みポイントの2つめは何と言ってもラストシーン。タンダやトロガイの呪術、バルサや狩人の強さ、成長したチャグムの生への欲求、そしてラルンガの卵の渴望と、様々な登場人物の特徴が重なるシーンです。
--------------	---

また、聖道師と呪術師の知恵の融合も興味深かったです。上橋菜穂子さんの「鹿の王」にも同じような展開がありますが、もともと敵対する二つの集団の中で別々に言い伝えられていた知恵を持ち寄り、一つの問題を解決しようとする姿がとても感動的でした。

僕のお気に入りの登場人物はやっぱりバルサで、彼女の生い立ちや賢さ、思いの強さ、そして強さにとても惹かれました。

当然のことながらシリーズ全巻+外伝をまとめ買いしてしまいました。これからのチャグムやバルサの展開に期待しつつ、読み進めたいと思います。

1-359	359P (180分)	14-18,270-324	2020/11/30 14:08:03
-------	-------------	---------------	------------------------

[TOP](#)^



羊と鋼の森

著者名	宮下 奈都	発行年	2018年
出版社名	文春文庫	ページ数	244ページ
値段	702円	ISBN	978-4167910105
コメント	祝本屋大賞2016！ ピアノ調律師。あまり馴染みのない世界を舞台に、一生の仕事ってなんだろう、と真摯に、しなやかに問います。「どんなことでも一万時間かければ形になる」んだって。その道まっしぐらタイプの東工大生さんの心に響くストーリーかな、と選んでみました。華やかさはないけれど、透明で軽やかな語り口です。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

うさぎのぶー ☆☆☆☆	私は「一生の仕事ってなんだろう、と真摯に、しなやかに問います」というこの本の書評に興味を持ってこの本を読むことにしました。 結論から言うと、この本を読んでよかったと思います。 主人公の外村が偶然にもピアノ調律に立ち会う場面から物語は始まるのですが、まずその描写がすごいです。日の暮れた体育館、調律師と2人しかその場にはおらず、ただピアノの音だけが鳴り響く...ピアノの音色に主人公が心奪われる瞬間がものすごく丁寧に描かれており、きっとすぐ物語に飲み込まれると思います。 主人公には特別な才能はなく、むしろピアノとの出会いが高校生であることから出遅れた状態からのスタートとなります。個性豊かな先輩たちや、調律先の双子の姉妹などに囲まれながら、調律師という仕事に向き合い続ける姿が力強く描かれており、読む人に前に進む勇気を与えてくれるでしょう。 この本を読み終えて、ひとつの物事を地道にコツコツと続けていくことの大切さをひしひしと感じました。また、そんな続ける覚悟を後押ししてくれる作品であると思います。		
	全部	274P (240分)	7-18 2020/11/30 23:42:16

ラゴス ☆☆☆☆☆	高校生の時、ピアノ調律師の板鳥の調律に感銘を受けた主人公の外村が、新人の調律師として少しずつ成長していく物語。先輩調律師に囲まれて、技術を磨き、理想の音を探し求める中で、自分の未熟さと向き合い努力を続けていく。羊毛のハンマーと鋼鉄線の弦で出来た「羊と鋼の森」に魅せられた主人公の素直で懸命な姿が、北海道の穏やかな街を舞台に描かれている。 作中では劇的な事件や見事な伏線回収が描かれているわけではなく、主人公の緩やかな成長が静かに語られていく。緩やかで劇的ではないからこそ、主人公の努力と成長に、よりリアリティが感じられる。何かを志し、努力したことのある人にはとても共感できるような、ある種そうした努力に寄り添ってくれるような優しさが作中には満ちているようだった。理想・未熟・才能・挫折のような、人が努力するうえで否応なく付いてくる感情や苦悩をありのままに描き、それらを優しく包み込んでくれるような作品。
--------------	--

	全て	267P (200分)	64ページ～	2020/11/30 07:05:41
satisfaction ☆☆☆☆	高校生の時、主人公の外村が偶然ピアノ調律師の板鳥と出会い、調律に魅せられていく。個性豊かな先輩や双子の姉妹に囲まれながら成長していく。私がこの小説を読んで一番印象に残っているシーンは、外村が初めて調律で挫折を味わうところだ。 「今まで習ってきたことも、店で毎日練習していることも、どこかへ飛んでしまった。」 「、わかっているつもりがわかっていなかった。暑くないのに汗をかいた。緊張しているつもりもないのに指が震えた。」 私にとって、この感覚はとても理解できた。大学に入ってからこのような経験をしたことがあるからだ。普段できることができないもどかしさ、自分への落胆。この描写は、読むのがとても辛かった。 しかし、彼はここで立ち止まることなく前に進んでいく。どうすればいいのか、何が足りないのか。恥や外聞を気にせず、自分に必要なものを集めていく。根気よく、一步一步確実に。目標に向かってどんなことでもやっけてのける彼の姿勢を学ぶことができました。			
	1-274	274P (360分)	57-67	2020/11/30 04:22:36
unknown ☆☆☆☆	この小説は2015年に刊行され、2016年本屋大賞、王様のブランチブックアワード大賞2015、「キノベス！2016」1位という史上初の三冠を獲得し、ベストセラーとなった作品です。高校生の時にあるピアノの調律師と出会ったのをきっかけに、主人公が調律の世界に入り、戸惑いながらも様々な人との交流を通じて成長していく姿が描かれています。 主人公はもともと音楽に精通していたわけではありませんでした。そのため、半ば衝動的に調律の道を選んだものの、右も左も分からない日々の中で苦悩し続けます。そんな彼の背中を、職場の先輩たちや依頼人たちが後押ししていきます。登場人物の性格や主人公の心境の変化が、温もり溢れる表現で描かれています。 人生の中で、どうしてもうまくいかない時期や、どうしたら良いか分からない時期があると思います。そのような状況にある人に是非読んで頂きたいです。調律師を目指したいなくても、どこか励まされた、元気をもらったと感じられるのではないのでしょうか。			
	全部	260P (300分)	56-60ページ	2020/11/29 14:43:52
sora ☆☆☆☆	初めの情景描写が感動した。今私がこの本を読んでいる季節と本の冒頭の季節が同じなのか、私は季節を感じるのが大好きであるから、おそらく著者の表したい情景が身に染みて伝わってくる。非常に心地よい。主人公の外村が一流の調律師の第一歩を踏み出すにあたって、自然の音を聴けることが必要条件になっている。著者の自然描写があるからこそ自然の音を活かす小説を書けたのだと感じた。 また、これは主人公が自然だけではなく個性的な調律師の先輩達や客と接し、時には失敗しながら成長していく話である。些細なきっかけ、しかし本人にとって確かな根拠を持って歩き始めた道である。外村は平凡で、上手くいかない、上手くなれるか先の見通しが立たない状態が続いており、これは誰しも共感できるであろう。その中で、謙虚に些細なことから学んでいこうという姿勢は学ぶ所が多い。 全体として非常に読みやすく、おもしろかった。			
	家	256P (399分)		2020/11/22 04:19:30

[TOP](#)



蜜蜂と遠雷 上・下

著者名	恩田 陸	発行年	2016年
出版社名	幻冬舎文庫	ページ数	507ページ
値段	1,944円	ISBN	978-4344030039
コメント	クラシック音楽愛好家さんにお薦め。といってもおカタイところはなく、コンクールという枠組を巧みに使って、4名の演奏者たちもくっきりキャラ立ちしてて、500ページの大作だけど演奏中に居眠りなんてことはありませんでした。あからさまにウザいヤツがひとりも出てこないのもGood。音楽は善悪では測れない。天上のハーモニーはまさにgift。 2017直木賞＆本屋大賞ダブル受賞なのもナットクの貴禄。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント
立ち読みポイント

投稿時間

totoro
☆☆☆☆☆

心地よい、温かい空気に包まれている感じー。そんな感覚を覚えながら読んだ後に残ったのは、果てしない青い空がずっと遠くまで続くような、清々しさだった。高校の時に筆者である恩田陸さんの「夜のピクニック」を読んでファンになって、映画の予告を見てからずっと読んでみたかった「蜜蜂と遠雷」。普段は500ページあるこの大作をなかなか手に取ることが出来なかったが、せっかくの機会だとももって初めてページをめくった。

「蜜蜂と遠雷」は、クラシック音楽の若手ピアニストが集う世界的なコンクールを舞台とし、コンクールを取り巻く様々な人視点から本選までの道のりを描いた作品である。それぞれの参加者が様々な事情を抱えて特別な想いを抱き、その情景をピアノで描く。それぞれの個性があって、でも真摯に音楽に向き合っているという共通点をもつ彼らのドラマは、自分とはかけ離れた孤高の天才であるにも関わらず、どこか共感を感じさせる。もしクラシック音楽に精通していたら、きっと活き活きとした音楽が頭の中に流れてきたことだろう、と考えると少し心惜しい気がしたが、音楽を知らなくても十分楽しめる、そんな青春群像劇だった。

あなたはどの天才を応援するだろうか？ 審査員に評価をください、最後には順位のつくコンクール。そんな中、ライバルでありながらも互いを支えあい、刺激を与えあって成長していく彼らのこれからをずっと応援したくなる。「蜜蜂と遠雷」、是非最初から最後まで読んでほしい、おすすめの一冊です。

全部	507P (420分)	406-425	2020/10/08 20:41:01
----	-------------	---------	------------------------

[TOP](#)



旅猫レポート

著者名	有川 浩	発行年	2017年
出版社名	講談社文庫	ページ数	328ページ
値段	640円	ISBN	978-4062854801
コメント	こなまいきな猫ちゃんに思いつき泣かされたいかたは、いらっしやいませんか？ 電車のなかで読むとキケンだぞ、と100を超えるAmazonのレビューが大合唱なのも、うなづけます。ほんと2度目に読んでも泣けました。 ポップな文体でかるやかに展開しつつ、しんと雪の降り積む終盤へ。 あの銀色のワゴン、いまも日本のどこかを走っている気がします。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム

お勧め度

読んだ場所

読んだページ数（時間）

コメント

立ち読みポイント

投稿時間

チョコQ ☆☆☆☆☆	この本は、人間のサトルと猫のナナが主人公の小説です。交通事故をきっかけに野良からサトルの飼い猫になったナナは、あることがきっかけでサトルの元を離れなくてはいけなくなってしまいます。そして、ナナの引き取り手を探すために、サトルとナナは銀色のワゴンに乗って旅に出ます。ナナの引き取り手の候補は、かつてサトルと親交があった人たちです。お話はその人達とナナの視点から語られ、少しずつ、丁寧に、サトルを含めた登場人物の人物像と葛藤が描かれます。ナナの少しスパイスの利いた口調と可愛らしいツンデレな性格、出会う人々が持っている様々な過去と個性が、サトルとナナの旅路を鮮やかに彩ります。出会った人の数だけ人生も旅も素敵なものになる。そんなふうに乗せてくれる、心温まる作品です。 自分は小説を選ぶときに冒頭の数ページだけを読んで判断してしまうのですが、この本は入りから面白い予感に満ちていて、すぐに物語の中に入り込むことができました。感動の質もただ辛いものではなく、希望があって前向きになれる感動でした。実写映画化されているらしいのですが、原作を読んだうえで映画版も観てみたいと思いました。		
	全部	349P (320分)	6-22ページ 2020/11/30 20:49:58

KOKi ☆☆☆☆☆	人生で初めて、小説で号泣しました。創作物で泣いたことは今まで何度もありました。映画やアニメ、漫画など。小説で感動して泣いたこともありますが、嗚咽が漏れるほど泣いたのはこの『旅猫レポート』が初めてでした。 この物語は1匹の野良猫と主人公のサトルが出会うところから始まります。ある日サトルは、自分の「銀色のワゴン車」のボンネットで寝ていた猫が車にはねられけがをしているのを見つけます。サトルは動物病院に連れていき、完治するまで家で飼うことになります。しかしけがが治ったあともサトルは猫と一緒にいたいと思い、猫もサトルと一緒にいたいと思います。そして、野良猫改め「ナナ」とサトルの生活が始まります。しかし、二人と一緒に暮らし始めて5年、サトルはどうしようもない理由でナナを飼い続けることができなくなります。そこでサトルはナナを飼ってくれそうな旧友を訪ね、ナナと一緒に旅をします。 この物語は、ナナ視点と人間視点が入れ替わりながら進んでいきます。旧友とサトルが話している
---------------	---

	出会ったとき、それが小説であろうと映画であろうと、一番感動できる作品だと思います。最近では、ブログよりも動画(YouTubeを筆頭として)の時代だといわれているように、動画の方が見やすいですし美しいです。もしかしたらこんな意見になるのは僕が大学に入って初めて小説を読むという、「小説慣れ」してなさ、が故なのかもしれません。映画と小説の違いとして、小説は主人公の心情がこまやかに書かれていますが、これはかえって桜良と主人公のテンポの良い会話を阻害しているように思えました。また、恋愛というものを現実問題として考えたときに、自分のおもいを自分の中で秘めたり、相手への思いやりの欠如は致命的です。この主人公と同じような行動をとるのはやめましょう！物語と現実を一緒にするなど。。申し訳ないですが、やはり現実性に欠ける設定では心に響かなくなってしまったのです。。と、散々批判してきましたが、このストーリーや途中で出てくるセリフには普遍的な真理を突いたり、そういう考えは美しいなと思えるようなものがたくさんあります。人生という大きなテーマに対してその儚さと美しさが描かれた素晴らしい作品だと思います。特に立ち読み指定箇所は自分の中で一番好きなシーンです。ぜひ内容を知らない方は、小説でも実写映画でもアニメでも各人の好きなスタイルで一度触れてみることをお勧めします。			
	1-325	325P (285分)	182-196	2020/11/13 20:57:55

toitoi ☆☆☆☆☆	私は映画から君の臍臓をたべたいを知りました。しかし、本の方は読んだことがなく、また、本の方が面白いということを知ったのでこの本を選びました。主人公は初め、小説などにしか興味なく現実の人には興味がなかったが桜良と関わっていく中で人に興味を持つようになり、最後に自分の気持ちを強く気づいたシーンがとても感動しました。また、病室で桜良と話して「あー楽しい」と感じているシーンは主人公の心の変化を直に感じ取れてとても良かった。しかし、良い雰囲気になってからの突然の別れにはとても驚いたし、主人公が共病文庫を読み泣き崩れる場面では本当に涙が止まらなくなった。このような、展開が割とゆっくりしている恋愛ものは割と苦手な自分があつという間に一気に読みしてしまうぐらい先が気になりかつ面白い物語であったのでまだ読んだことのない人にはぜひ読んでほしい本です。本は苦手という人は映画でも同じくらいに感動できると思うのでそっちでもいいと思います。			
	すべて	325P (300分)	243-258	2020/11/11 23:37:09

chris ☆☆☆☆☆	読み終わった直後の感想としては、切なさとおんりの暖かさが入り混じる形容し難い気持ちであった。 この本を読もうと思ったきっかけは、映画化とアニメ映画化もされたほどの人気作品であり、かつ自分の周りの読んだことのある人も全員が絶賛していたため、せっかく読書の機会を設けていただいたのだから読んでみようという軽い気持ちで手にとった。タイトルからは内容が一切予測できなかったが、全部を読んでタイトルの真意を知った時には作者の凄さを感じた。 正直なところ中身はそこまで深くないが感動するから程度で人気になったと思っていたが、読んでみたらどんでん返しも多く、それに加え「生」というものについて考えさせられる場面が多々あった。立ち読みポイントに指定した箇所でも生についてヒロインが語っているが、こんなにもストレートに生というものの深さを伝えられるのだと鳥肌が立った。 また、主人公の名前が全部を通して明かされることは一度もなく？だけで、表現されていたことも今まで見たことのないスタイルでありだからこそ没入しやすかったのかもしれないと思った。内容はもちろん、心に響くものがあり読んでよかったと感じられる一冊であったと思う。是非一度は読んでほしい。			
	1-325	325P (250分)	217-228	2020/10/25 15:21:22

ROLAND ☆☆☆☆☆	根暗な性格の男子高校生である主人公の「僕」と、そのクラスメイトで明るい性格の女子高生・山内桜良の二人を中心に物語は描かれている。 ある日、盲腸の手術後の抜糸のために病院を訪れた主人公は、ロビーのソファに置き去りにされていた一冊の手書きの本「共病文庫」を手にする。興味本位で中を覗くと、臍臓の病気で余命数年しか残されていない誰かの日記だった。あまり見ていいものではないと思い、本を閉じたその時、声をかけてきたその本の持ち主はなんと同じクラスの山内桜良だった。「僕」は、クラスメイトや彼女の親友さえ病気のことを知らないのに、ひょんなことから衝撃の事実を知ってしまったのだ。そして、この時から二人の関係が深まっていく。 根暗な性格のため交友関係の薄い主人公は、自分が大病を患っているにも関わらず明るい彼女に「1日の価値は全部一緒」であることなどたくさんのことを学んでいく。「僕」が、明るい彼女の存在によってどんどん変わっていくのが見どころである。			

場面。それを横で聞いて、人間のようなところもありつつ、猫独特の感性で語るナナ。このどちらかだけでは、これだけの感動はなかったと思います。両方の視点で語られ、互いが思いあっていることがきちんと文章にされていたからこそだと思います。お調子者だったサトルが家でしたり修学旅行を抜け出したりした思い出を語りあう場面。旅先で出会った幼い猫に先輩面して話したり、犬と喧嘩する場面。そういったコミカルな場面が多いですが、ナナとサトルが互いを大切に思いあっていることがしっかりと伝わってきます。

立ち読みシーンとしてお勧めしたいのは、17～19ページです。本当は8～22のプロローグを読んでほしいのですが、プロローグそのものを勧めるのは芸がない気がしたので、サトルとナナの生活が始まるシーンをお勧めさせていただきます。

ペットを飼っている人はもちろん、そうでない人も絶対に読むべき作品だと思います。そしてあわよくば、猫派の人が増えればいいなと思っています。ペットに限らず、身近なものの大切さに気付かせてくれる。そんな作品です。

1-328	328P (200分)	17-19	2020/11/30 20:06:39
-------	-------------	-------	------------------------

久しぶりに本を読んで涙した。タイトルに「猫」が入っているという理由だけで、僕はこの本を選んで読んだのだが、予想をはるかに上回る感動作だった。

この物語は、飼い主であるサトルに拾われた元「野良猫」のナナによって語られていく。物語の後で判っていくことなのだが、サトルは実は末期がんを発症していて、余命1年を宣告されている。そこで、ナナの新しい飼い主を探すために、知己を頼って旅に出るのである。

元来猫好きのサトルは、小学校の修学旅行の最中に、両親を交通事故で亡くしている。ナナと瓜二つの猫ハチはこの「幸せだったころ」に可愛がっていた猫だった。最初の旅で訪れた小学校時代の親友幸介は、ハチを引き取るためにサトルと一緒に「家出」（本来の意味での家出ではない）までした仲で、サトルの両親が亡くなったときには、サトルがサトルの母親に頼まれていた「よーじやのあぶらとり紙」を棺に供えた。頑固な父のためにハチを引き取れないまま、叔母のもとへ引っ越すサトルと別れた幸介は、このことに非常な負い目を感じている。彼は不仲な父が妻へ放った心無い言葉のために別居生活を送っているが、サトルは「まっさらな猫」を探すことを提案され、サトルは次の飼い主候補のもとへ行く。

実は、叔母の法子から明らかにされるのだが、サトルは事故で亡くした両親から生まれたのではない。彼は生まれてからすぐに生ごみに捨てられ、この遺棄事件を担当した当時の裁判官である法子を通して、姉夫妻である両親が養育したものである。この世に生を受けた直後に捨てられ、拾ってくれた両親を幼少の頃に不慮の事故で亡くし、大切な飼い猫ハチも預かり先の小倉の親族の家で、最期まであうことなく亡くなった。その上腫瘍が全身に転移して若くして亡くなる運命にあるサトルは、客観的に見れば「不幸」なのかもしれない。しかし、それでもサトルは、最期まで血のつながらない自分を愛してくれた両親の存在、養育してくれた叔母法子、旅先で会おう幸介・吉峯・杉・千佳子夫妻という思いやりのある素敵な友人たちに感謝し、自らは幸せな人生を送ったと振り返る。そのことが、この物語を単なる悲劇ではなく、読了した読者を優しい幸福感に包む理由であるように思う。

今回「立ち読みポイント」はクライマックス、ナナが虹の橋を渡り、サトルとの旅の思い出を語りあうシーンにした。この箇所については、僕が理屈をこねて説明するよりも、読者自ら感涙を流されたく思う。

全部	349P (360分)	pp.331～	2020/10/15 16:47:10
----	-------------	---------	------------------------

水上滝太郎
☆☆☆☆

[TOP](#)



小説 君の名は。

著者名	新海 誠	発行年	2016年
出版社名	角川文庫	ページ数	262ページ
値段	560円	ISBN	978-4041026229
コメント	もしかして、入れ替わってる!? おなじみテンプレの展開から始まるけれど、彗星に縁取られて、ストーリーはどんどん加速します。きれいな情景描写は、やっぱり新海さんの絵で楽しみたいけれど、小説は小説で、かろやかに一場の夢を駆け抜けてくれます。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勧め度

読んだ場所

読んだページ数 (時間)

コメント
立ち読みポイント

投稿時間

satisfaction ☆☆☆☆	自分は高校三年生の秋に映画「君の名は。」を見ました。小説版を読んだことはありませんでしたが、今回の授業を機に手に取ってみました。大まかなストーリーは田舎暮らしの女子高校生(三葉)と都会暮らしの男子高校生(瀧)の魂が入れ替わり、ある事件から人々を救うために奮闘するという感じです。物語の途中で三葉が瀧くんに会いに行くシーンがあるのですが、時間軸のずれによって瀧くんが三葉のことを知らないで、三葉が声をかけても「誰、お前」と一蹴されてしまいます。三葉が瀧くんに好意を寄せていることを思うと、とても悲しくなります。好きな人に自分が認知されていなかった時の絶望感とはとても思いません。物語のラストでは惨劇を回避することができました。お互いに相手の記憶がなくなっているはずですが、心の奥底では忘れてはいけない人として覚えており、初めて本当の意味で出会うことができました。とてもロマンチックです。小説版では、映画と違って情景や表情を言葉で表しているので違った楽しみ方ができました。			
	1-272	272P (300分)		2020/11/30 02:24:40

[TOP](#)



君の臍臓をたべたい

著者名	住野 よる	発行年	2017年
出版社名	双葉文庫	ページ数	328ページ
値段	720円	ISBN	978-4575519945
コメント	デビュー作にして大ヒットのキミスイ。アニメ化を機会に入れてみました。 文章は拙いし、王道設定も不自然さありまくりだけれど、ういういしい直球勝負が、若い感性にヒットしたのでしょう、たぶん。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム			コメント		
お勧め度	読んだ場所	読んだページ数 (時間)	立ち読みポイント	投稿時間	

8888 ☆☆☆☆☆	この本はコミカライズ、アニメ映画、実写映画と多くのメディアミックスが行われた物語の原作小説だ。私自身、この物語に触れたのは小説版が最初ではなく、先にコミカライズとアニメ映画版を見ていたが各媒体で印象が違う部分もあるのですでにあらすじを知っている人にも原作を読んでみることをお勧めしたい。個人的な印象になるが、始めに読んだコミカライズはキャラクターザインが幼く、やわらかく描かれているので主人公と桜良の関係はあどけなく、無邪気な印象を受けていた。しかし、小説では登場人物の見た目は会話や口調、描写から想像するにとどまる。読者の年齢にも左右されるかもしれないが小説では二人の関係が大人びて、より切実に感じられた。内容は雑把に言ってしまうと余命幾許も無いヒロイン桜良と主人公の最後の日々という話で比較的好まれるカテゴリーだ。つまり冒頭で桜良が死ぬことが明かされたうえで話が始まるのだが、彼女は自らの境遇をけして悲観せず日常を楽しむ。その姿に日常の生き方について考えさせられ、主人公と共に桜良に影響される物語だ。			
	すべて	325P (420分)	213-229	2020/11/30 21:55:03

satisfaction ☆☆☆☆	私は先日の金曜ロードショーで君の臍臓を食べたいを初めて鑑賞しました。数年前に話題になった映画だったし最近アニメ化もされたこと、またタイトルが特徴的で興味があったので観てみました。軽い気持ちで見えていましたが、とても心が揺さぶられたので小説も読んでみたいと思い購入してみました。 病に冒され余命が僅かな少女と、他人との交流を避けてきた少年のボーイ・ミーツ・ガールという王道ストーリーです。主人公の少年の言い回しが独特で少しわかりづらい部分がありましたが、ヒロインとの掛け合いが面白かったので楽しく読みました。 明日が必ず来るという保証はなく、日常が突然崩れてしまうこともある。そんなことは滅多にありえないから、と目を逸らしていたことに気が付きました。今、自分自身が生きていることを噛み締めて、後悔の無いように一日一日を過ごしていこうと思いました。 小説にしかないシーンもあったので、私のように映画から入った人にもおすすめです。			
	1-325	325P (360分)	243-258	2020/11/30 20:44:30

bora ☆☆☆☆	「君の臍臓が食べたい」、主人公がクラスメイトである山内桜良に送った一言の最後のメール。彼女がこのメールを見たのか見てないのかも知らない。見たとして、どう受け取ったのだろうか。実写映画化、アニメ映画化もした人気作で、余命わずかのヒロイン桜良と、偶然か必然かそれを知ってしまった主人公の関係が進展していくストーリー。僕は主人公に気持ちを移入しすぎて、電車の中で最後まで読めなかったので、ラストは家に持ち帰ったほど感動してしまった。 桜良は、自分の病気を友達に告白したらいつも通りに接してくれないと思い、誰にも打ち明けなかった。その秘密を知ってしまった主人公だったが、彼女に対して普通の友人として接する。そんな彼女に興味を持った桜良は距離を縮めて行き、、、 「私も君も、もしかしたら明日死ぬかもしれないにさ。」余命宣告された彼女の口から出た、なんて説得力のある言葉だろうと感じた。実際、明日死ぬかもしれないと思って生きている人はどれだけいるのだろうか。 最後に、僕が主人公のとても感情移入してしまった一番大きな理由があった。それは、僕の初恋の人の名前が「さくら」だったからだ。			
	すべて	325P (300分)	216-229	2020/11/30 20:35:59

J.T ☆☆☆☆	一度中学三年生のころに読んだことがあったが、今回は電子書籍版で電車の移動中に読んでいた。自分はあまり映画や本等で泣くことがないが、この本は2回とも泣いてしまったので、本で泣きたいという人にはお勧めしたい。 「君の臍臓をたべたい」というインパクトの強い題名で、自分は初めて読むときには、どんなグロテスクな内容なのだろうかと少し敬遠してしまっているところがあったが、実際に読み始めると、内容にはまっていき、気が付いたら時間が過ぎているような魅力のある本だと思う。その理由は、本文が口語に近い形で書かれており、自分がその世界に入って実際に体験しているのかのように感じられるからであろう。 自分は中学3年で初めて読んだときに、この本のおかげで他の小説もそれまでと比べて結構読むようになったので、今現在コロナ禍で、あまりやることなく退屈している人には、ぜひ読んで他の小説を読み始めるきっかけにもらえればと思う。			
	4-298	295P (240分)	248-274	2020/11/29 23:53:47

KOKi ☆☆☆☆	僕はこの本を、高校1年生のときに読みました。当時学校ではやっていて、仲の良かった先輩に借りて読みました。それまでこういった小説にはあまり興味がなく読んだことがなかったのですが、これを読んでから読むようになったりしました。 ある日、主人公の「ぼく」は病院で共病文庫という文庫本を拾います。しかしそれは日記帳で、そこにはクラスメイトの山内桜良が思い臍臓の病気であり、余命が残されていないということが書かれていました。根暗で友達がいない「ぼく」と、明るく社交的な桜良。正反対の二人。「ぼく」が秘密を知ってしまった日から二人の奇妙な関係が始まります。 ここまで読むと、100万回きいたようなありふれた題材だと思ったかもしれませんが。病気のヒロインと唯一それを知っている主人公。そして付き合い始める二人。よくある恋愛小説です。しかし、この本は違います。桜良は病気をまったく気にしていないかのようにふるまい、それに「ぼく」は困惑しています。物語を通して恋愛が前面に押し出されていることはありませんが、男女ゆえのすれ違いもある。そこら辺の安直な恋愛小説とは違います。そこがこの小説の面白さだと思っています。 いままであまり小説を読んでこなかった人や、こういったジャンルに抵抗がある人もいると思いますが、一度読んでみてほしいです。実写映画化やアニメ化もされていますが、個人的には小説が一番お勧めです。この作品に限ったことではありませんが、小説だと絵がないので、自分の考えそのもので物語に触れることができると思います。			
	1-325	325P (220分)	5-17	2020/11/29 15:33:42

unhealthy boy ☆☆☆☆	高校のときに周りの友人がキミスイの実写やらアニメやらを見ていて、面白いとは聞いてはいたものの見ずに終わってしまいました。今年の3月頃(お花見の季節)に一度実写ver.をアマゾンプライムビデオで見たのですが、久々に感動して泣きそうになりました。しかし、そのことを話すと小説ver.の方が感動するといわれたので、今回この機会を利用して読んでみようと思った次第であります。さて、さっそく感想の方なのですが、期待していたよりも面白みは感じられませんでした。実写の方でこの小説の名シーンを見てしまっているが故でしょうか。やはり最初にこのストーリーに			
-----------------------	--	--	--	--

作者である住野よるさんは、本作品でデビューし、翌年には同作で「本屋大賞」第二位、Yahoo! 検索大賞【小説部門賞】など多くの賞を受賞し、そのまた翌年には実写映画化され、第41回日本アカデミー賞で優秀作品賞を受賞した。劇場アニメ化もされた、この国民的大人気のストーリーを一度も知らずに過ごすのはもったいないことこの上ないと言っても過言ではないでしょう。

1-325

325P (200分)

258-299

2020/10/11
17:53:31

[TOP](#)△



かがみの孤城

著者名	辻村 深月	発行年	2017年
出版社名	ポプラ社	ページ数	554ページ
値段	1,944円	ISBN	978-4591153321
コメント	いじめ、不登校、ひきこもり、そしておとなたちが干渉しない鏡の向こうの世界へ——。ここまでは、現実逃避あるあるの展開なのですが、そこからの子どもどうしの関係づくりとラストの腑に落ち具合は、さすが2018本屋大賞受賞作。 500ページ超えの迫力でファンタジックな世界をご堪能ください。		

読者投稿欄

コメント登録

ペンネーム
お勤め度

読んだ場所

コメント
読んだページ数（時間）

立ち読みポイント

投稿時間

KOKi
☆☆☆☆

僕はこの本を自分が浪人生のときに買いました。予備校の近くにあったジュンク堂に参考書を買に行ったとき、「本屋大賞受賞!!!」といった広告が大きく飾られていました。もともと「パーシー・ジャクソンシリーズ」といったファンタジー小説が好きな僕は、この本の表紙に強く惹かれこの本を買いました。

この物語の主人公の安西こころは中学1年生の女の子です。勘違いが絡んだ恋愛関係でクラスで発言力がある女子にいじめられていたこころは家に引きこもってしまっています。お母さんはそんなこころのために、学校にいけない子供が通うスクールを探したりしています。しかしこころはそこに行くこともできませんでした。落胆するがこころのためにやさしくしてくれるお母さん。そんな母に申し訳なさを感じるこころ。ある日、そんな彼女の部屋の大きな姿見の鏡が光りだします。光る鏡を通った先にはおとぎ話で見るような大きなお城が立っていました。そこにはこころ以外に6人の少年少女がいました。その日から、日中に鏡を通ってお城に通うという奇妙な生活が始まります。

この物語では、自分自身の弱さに向き合わされます。物語で起きてるいじめを見て、「しょうもないなあ」と思えます。こころがいじめられるきっかけもしょうもないと思えます。しかしそれは自分が物語を読んでいる立場だから、この年齢だからなのではないかと思えます。この物語では、中学生の少年少女が自分の弱さに悩んだり、克服しようと戦った利する場面があります。それをただ読むのではなく、「自分がこの年齢だったらどうしただろうか」と考えながら読むとおもしろいし、この物語によりのめり込めるのではないかと思います。

あとこれは個人的な話なのですが、物語の途中にこころが「雨のにおいがする」といったのを「そんなのしないよ、変なの」といわれる場面があります。...雨のにおいってしますよね？

1-554

554P (320分)

27-31

2020/11/29
16:03:19

[TOP](#)

図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

映画一覧

プロフィール
一覧

自己プロフィール

掲示板